

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

身近な税

いわき市立好間中学校

3年 おぎの 萩野 ひろか 寛河

僕たち中学生にとって税は、まだまだ関係ないもののように思えます。しかし、よく考えてみると、税金は身近なものだと分かりました。

まず、税金を払う方です。僕たちはよく買い物をします。その時に、物価の5パーセントの消費税を払っています。これは当たり前すぎて、払っているという意識がありません。それから、めったに払わない入湯税などがあります。また、大人になると働きます。その時にもらう給料からは、所得税という税が支払われます。野球選手など、年に何億円というお金をもらっている人は、所得税として支払うお金は多くなります。さらに、大人になると、ほとんどの人が乗る自動車にも、自動車税というものがあり、年に1回、車の大きさなどによって、その自動車の所有者に課せられます。

では、このようにして支払った税金は、どのようにして使われているのでしょうか。まずは、公務員と呼ばれる、学校の先生や警察官や消防士、国会議員などの給料は、国民の税金から支払われています。それから、新しい道路や、壊れた道路を直すための費用も税金から出ています。また、ごみの回収など、僕たちの生活の様々なところで、税金は使われています。税金がないと、普段通りの生活が出来なくなると言っても過言ではありません。

日本では現在、5パーセントの消費税を支払っていますが、日本以外にもおよそ145カ国でも、消費税があります。世界の中の消費税を見てみると、多いところでは、スウェーデンで25パーセント、次いでベルギーで21パーセント、イタリアで20パーセントなどとなっています。少ないところだと、日本をはじめ、台湾やカナダ、パナマやナイジェリアで5パーセントとなっています。

世界の中で見ると、日本の消費税5パーセントというのは、少ない方です。しかし、

この5パーセントの消費税が今、8パーセントから10パーセントに増税しようとしています。そうすると、普段の買い物はもちろん、将来、車や家を買う時に相当なお金がかかってしまいます。このようなことは、できるだけ避けたいことですが、避けたくても避けられない問題になりつつあります。

このように、税は、関係なさそうで、以外と身近なものだということが分かりました。今はそんなに支払っていない税金も、あと数年後には、自動車税や所得税など、大人ならではの税金も支払わなくてはなりません。最近、税金を納めない人が多いというニュースを見ました。しかし僕は、「この税金は、日本のため、そして今住んでいるこの地域のために使われる。」ということを入れて、税金を納めないということのないようにしたいと思いました。